

# メバチ 大西洋

Bigeye Tuna *Thunnus obesus*



## 管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

## 生物学的特性

- 最大体長・体重：尾叉長約 2.0 m・約 200 kg
- 寿命：17 歳以上
- 性成熟年齢：3 歳で始まり、4 歳以上で全個体が性成熟に達する
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24°C 以上の海域
- 索餌期・索餌場：特定の海域・時期の報告はない
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類、他のマグロ類よりハダカイワシ・ムネエソ等の中深層性魚類が多い
- 捕食者：大型のマグロ・カジキ類、サメ類、歯鯨類

## 利用・用途

刺身、すし、缶詰等に利用されている。

## 漁業の特徴

本種は主にはえ縄、竿釣り、まき網によって漁獲されてきた。主として成魚を漁獲するはえ縄が漁獲の大部分を占めてきたが、大西洋は他の大洋と異なり、従来からまき網や竿釣りによる漁獲が比較的多い。まき網が人工浮き魚礁 (FAD) 操業を開始した 1991 年以降、小型魚漁獲が増加した。

## 漁獲の動向

総漁獲量は 1994 年に過去最高の 13 万トンに達したが、その後徐々に減少して、2005 年以降は 6 万～8 万トンで推移し、2020 年の総漁獲量は 5.7 万トン（予備集計）で前年から大きく減少し、総漁獲可能量 (TAC)（6.25 万トン）を下回った。2020 年現在、はえ縄の漁獲は全体の約半分弱（48%）であり、まき網の漁獲（31%）は 2005 年以前に比べて比率が高い。メバチの平均体重は、はえ縄で 45～60 kg、竿釣りで 20～30 kg、まき網で 3～4 kg である。

## 資源状態

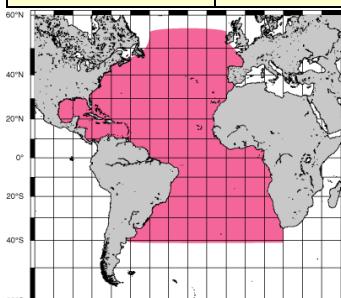
ICCAT の科学委員会は、2021 年に資源評価を実施し、統合モデル (SS3) による結果を管理勧告に用いた。結果として、最大持続生産量 (MSY)：7.2 万～10.6 万トン（中央値 8.7 万トン）、MSY を実現する漁獲死亡係数 (F) 及び産卵親魚量 (SSB) に対する比は、各々  $F/F_{MSY}$ ：0.63～1.35（中央値 1.00）、 $SSB/SSB_{MSY}$ ：0.71～1.37（中央値 0.94）と推定され、資源状態は乱獲状態及び過剰漁獲とされた。2021 年時点の TAC（6.15 万トン）を維持した場合、2034 年に資源が乱獲状態及び過剰漁獲でなくなる確率はおよそ 97% とされた。

## 管理方策

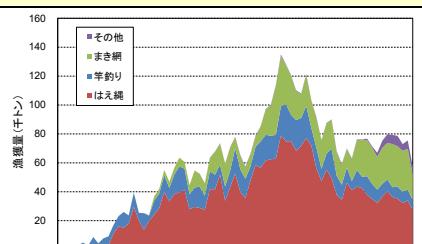
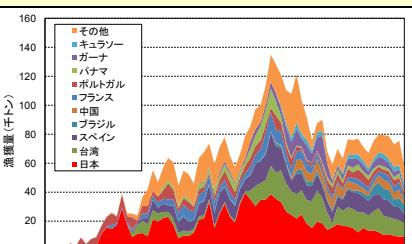
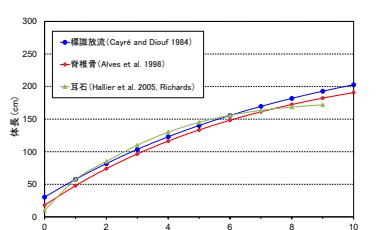
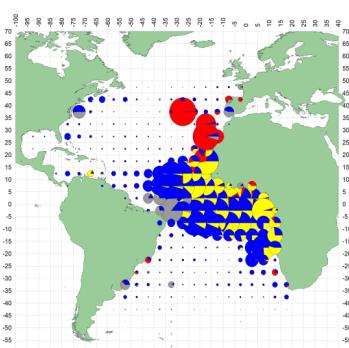
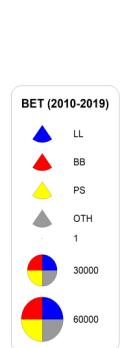
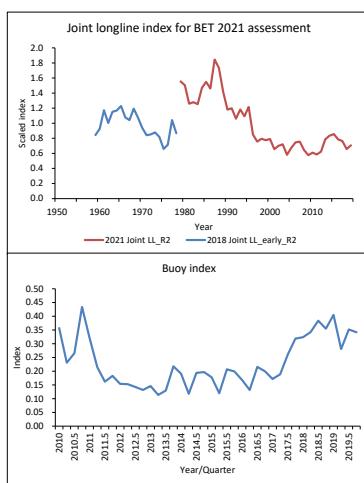
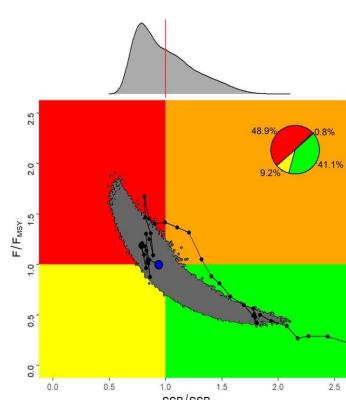
2015 年の ICCAT 年次会合において資源管理措置を決定した（2016 年一部改訂）。漁獲能力制限として、主要漁業国のはえ縄及びまき網における全長 20 m 以上の漁船における年間操業隻数が制定されている。毎年の TAC は 6.5 万トンに設定し、各国に漁獲枠が割り振られている。メバチ・キハダの幼魚が多く生育するギニア湾における FAD を含めた付き物操業の禁漁期、禁漁区域は、2015 年の年次会合で変更され、若干拡大（南緯 4 度、北緯 5 度、西経 20 度、アフリカ大陸で囲まれた海域において、1 月 1 日～2 月 28 日；2017 年 1 月から適用）された。同禁漁期／区で操業するまき網や竿釣り船には、引き続きオブザーバーの乗船が義務付けられている。また、FAD 数を 1 隻当たり一度に 500 基までとする。2002 年 4 月から、統計証明制度（輸入には漁業国の証明書が必要）が開始されている。2019 年の ICCAT 年次会合において、熱帯まぐろ保存管理措置が改定され、新たな TAC は 2020 年に 62,500 トン、2021 年に 61,500 トンとされた。また、2020 年には 1～2 月の 2 ヶ月間、2021 年には 1～3 月の 3 ヶ月間、大西洋全体において FAD 操業の禁止を決定した。FAD 数は、1 隻当たり一度に 350 基（2020 年）及び 300 基（2021 年）までとした。2021 年 11 月の ICCAT 年次会合において熱帯まぐろ保存管理措置が一部改定され、2022 年は、TAC は 62,000 トン、FAD 禁漁（大西洋全体）は 1 月 1 日～3 月 13 日の 72 日間に決定された（それ以外は同じ措置を 2022 年も継続）。

## メバチ（大西洋）の資源の現況（要約表）

資源水準	低位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近5年間)	5.7万～7.9万トン 最近(2020)年: 5.7万トン 平均: 7.3万トン (2016～2020年)
我が国の漁獲量 (最近5年間)	0.9万～1.1万トン 最近(2020)年: 1.0万トン 平均: 1.0万トン (2016～2020年)
管理目標	MSY: 7.2万～10.6万トン (中央値8.7万トン) (2020年の漁獲量: 5.7万トン)
資源評価の方法	SS3による解析: はえ縄漁業の単位努力量当たりの漁獲量 (CPUE)、及び漁獲動向等により水準と動向を評価
資源の状態	$F/F_{MSY} = 0.63 \sim 1.35$ (中央値1.00)、 $SSB/SSB_{MSY} = 0.71 \sim 1.37$ (中央値0.94)
管理措置	・TAC (6.5万トン: 2019年、6.25万トン: 2020年、6.15万トン: 2021年、6.2万トン: 2022年)、主要国々の漁獲枠、漁船隻数枠の設定 ・ギニア湾 (南緯4度、北緯5度、西経20度、アフリカ大陸で囲まれた海域) における1月1日～2月28日 (2016～2019年) もしくは大西洋全体における1月1日～2月29日の2ヶ月 (2020年)、1月1日～3月31日の3ヶ月 (2021年) ないし1月1日～3月13日 (2022年) の72日間のFAD操業禁漁期設定、FAD数制限 ・統計証明制度 ・オブザーバー乗船 (まき網、竿釣り)
最新の資源評価年	2021年
次回の資源評価年	未定



大西洋におけるメバチの分布

大西洋におけるメバチの漁法別漁獲量  
(1950～2020年)大西洋におけるメバチの国・地域別漁獲量  
(1950～2020年)標識放流、脊椎骨及び耳石から推定された  
メバチの成長曲線主要なまぐろ漁業による大西洋  
におけるメバチの漁獲分布  
(2010～2019年)  
青: はえ縄、赤: 竿釣り、黄: ま  
き網、灰: その他。凡例の丸は上  
から 30,000 トン、60,000 トン。資源評価ベースモデルに用い  
た資源量指標 (上: はえ縄統  
合 CPUE, 1959～2019年, 下:  
FAD漁業に用いるエコーサウ  
ンダーブイ (魚探が付いてい  
てその情報を無線で送信し、  
離れた場所から蝦群集魚群量を  
モニターできるブイ) のデータ  
を利用した小型魚の資源量  
指標 (2010年第1四半期～  
2019年第4四半期) )SS3の27シナリ  
オで推定された  
資源状態の推移  
青丸は最新年  
(2019年)の資  
源状態。